

くまのまえ 秋



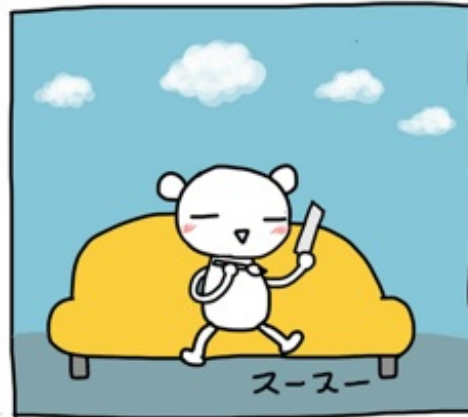
kanarihakokuma

新涼の風をまといて散歩道



散歩に出たら風が涼しくて、なんだか嬉しかった。.....という句である。

足元がスースーして終える秋さがし



立秋がくれば、暦の上では秋。吹く風などに秋の気配を探してしまうのも、また人の性ではないか、と思うのだが。8月は暑いし、それは難しいことなのだった。それが9月もだいぶ過ぎて、冷たい雨が降って、急に床まで冷たくなって。難問だった秋探しも、まさに自然に氷解してしまったようだ。.....という句である。

流木に腰をおろして秋の空



海岸に行ったら流木があった。ベンチの代わりに腰をおろして、しばらく空を眺めた。座りごころは最悪だったが。という句である。

長袖を干す青空秋暑し



吹く風も冷たくなって長袖などを出してたら、突然にまた暑くなった。心持ちはすっかり秋に向かっていたのに、なんだよ、もう、って思ったけど。衣服を干すには良い天気で、良かったじゃん。.....という句である。

木漏れ日を波打ち駆ける蜥蜴かな



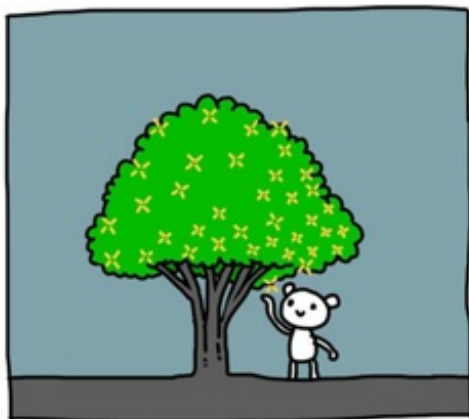
松林を歩いていたら。足元の陽だまりを小さい生き物が、スルスルって動いていった。蜥蜴かな
ナヘビだったと思う。.....って句である。蜥蜴は夏の季語。

ポップコーン投げて頬張る星月夜



秋の夜長。キャラメルポップコーン食べた。.....って句である。

手に取れど遠くに香る金木犀



金木犀の花を手にとり、くんくんしたが。やっぱり芳香は遠くから、漂ってくるようであった。……という句である。

大口をあけて潰れた南瓜かな



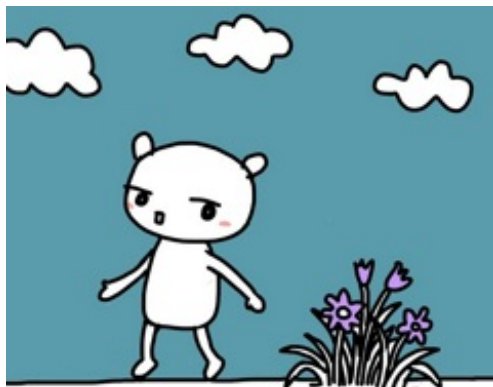
はじめて、ジャック・オー・ランタンをつくったとき。ナイフでジャックの口を大きく開けた。その方が、カッコいい気がしたからなのだが。三日もすると南瓜は張りを失い。ジャックの口は、くたあ〜と閉じてしまった。ジャック・オー・ランタンを作るときは、口を大きくし過ぎない方がよいよ……っていう、2012年頃に詠んだ句である。

三叉路のカーブミラーにあかね雲



三叉路に立っている丸いカーブミラーに夕焼けが映っていて、なんか意表をつかれる鮮やかさであった。……って句である。

コンクリの隙間を広げ草の花



コンクリートの割れ目に雑草が生えて、もこもこ茂り、花が咲いていました.....って句である。

雨戸閉め部屋半分の暗さかな



昼間に台風が近づいて。風も強くなってきたので、雨戸を閉めた。風のあたる方角の窓だけ。部屋の片方だけが、急に暗なったよ。……って句である。

なぜここに青い蠪螂本の上



机に置いた本の上に蠪螂がいた。なんで部屋に入ってきただろう、迷ったのかな、と思った。.....という句である。

こめかみに檸檬をあてる偏頭痛



頭が痛かった。冷蔵庫を開けると檸檬があったので、痛いところにあててみた。……っていう、句である。

天高く猫いた頃の我が家かな



古いアルバムを見てたら、猫の映ってる写真があった。。。って句である。

ミステリー釣瓶落としの解決篇



ミステリーを読んだ。夕暮れの頃に読み終わり。怒涛の解決編であったな、って暗くなりはじめた部屋で思った。.....というである。

掃除機を止めて静かな雨の月



雨降る夕暮れ、掃除機をかけてて。そういえば今夜は月見の日だったな、と思った。……っていう句である。

おしまい



最後まで読んでくださって、ありがとうございました！

くまのまえ 秋

<http://p.booklog.jp/book/90650>

著者 : kanarihikokuma

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/kanarihikokuma/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/90650>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/90650>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ